

残業時間の短縮やクレーム回避に貢献。

4つのJapan Color認証

(標準印刷認証、マッチング認証、プルーフ運用認証、デジタル印刷認証)を取得している北東工業がお客様のお悩みを解決します。

こんなことでお困りではないですか？



- 1 クライアントより工業製品のパンフレットを依頼されたが、増刷の度に製品の色が変わってしまう。このままでは信用問題に関わってくる。
- 2 有名タレントを使用したポスターやパンフレットのデザインを手がけているが、本機校正を行った後の本刷りの立会いに時間がかかり、負担となっている。残業時間が増えて、会社からは早く帰るように言われている。
- 3 営業マンが日々使用する販促チラシなので、大量に消費する。大量の印刷物が短納期で必要だが、品質にバラツキがあれば、営業ツールとして使いづらい。

お客様のお悩みを弊社のJapan Colorへの取り組みが解決致します

「Japan Color」は、日本のオフセット枚葉印刷における印刷色の標準を定め、それに基づいて印刷物を安定して作成する能力のある会社が認定するものです。

Japan Colorの最大のメリットは**安定した品質を手間と時間をかけずにご提供できる**、ということです。Japan colorの安定性は、増刷の度に色味が変わってしまうのではないかと心配だから立会いをした方がいいのではないかと、大量の印刷物を短い納期で印刷したら色が安定せず、品質が良くないのではないかと、というお客様のご不安を解消致します。

もう色味におけるクレーム対応や不要な立会いのために残業をすることもございません。

印刷会社は全国に約1万8000社ございますが、その内Japan Colorマッチング認証を取得している工場は47箇所しかございません。その数全体の0.2%！その0.2%に北東工業は含まれているのです。

実際に行っている取り組み

Japan colorの安定的な色品質を保つため、月2回のカラーチャートテストを行っています。また北東工業には6台のカラー印刷機がございしますが、6台全てのトーンカーブの調整を定期的に行うことにより、全ての印刷機がJapan colorの基準値内の色味に刷りあがるよう調整しております。それにより安定した品質のご提供を実現しているのです。

さらに、当社独自に毎月ミーティングを実施。「全印刷機」の測色を行い、全ての印刷機がJapan Colorの基準値内に収まるようにメンテナンスを行なっています。その結果、**安定した品質を手間と時間をかけずに、どの印刷機でも安定した印刷物をご提供できる設備と体制を作ることができたのです。**

残業短縮やクレーム回避に頭を悩ませているお客様。北東工業ならお客様のお力になれるかもしれません。是非、一度弊社中央窓口までご相談ください。

また色の安定性についての詳しい取り組みについては、裏面の「DTPの匠」からもご紹介致します。続きは裏面を是非。

品質にとことんこだわる北東工業。

私たち北東工業は、印刷というものの作りに真摯に取り組んでいます。
その想いを、各部署の「匠」たちに語ってもらいます。



第2回目は、北東工業が誇る画像編集のプロたちを取りまとめる DTP 課の課長城島に、北東工業のカラーマッチングへの取り組みについてインタビューをしました。

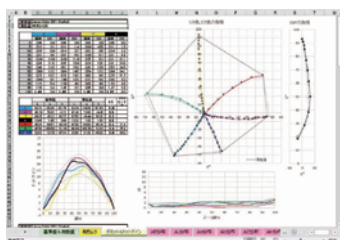
色の管理・カラーマッチングは、具体的にどのようなことに取り組まれていますか？

毎月、印刷課を交えたミーティングを行い、全印刷機で印刷した「JapanColor チャート」を測色機を用いて数値分析し、印刷機のコンディションの確認を行っています。分析結果は印刷課の各オペレーターへフィードバックを行い、是正すべき点を確認、対応を行なっています。



営業部からの要望にはどう対処されていますか？

色見本があっても印刷した時に色味が一致しない、ということはままございます。そのため、まずは当社にてプルーフ出力を行い、見本と差異があるかを確認し、結果をお客様にご覧いただいた上で、ご要望に応じて修正費用を頂戴し、DTP 課にて色の合わせこみ、修正を行なっております。

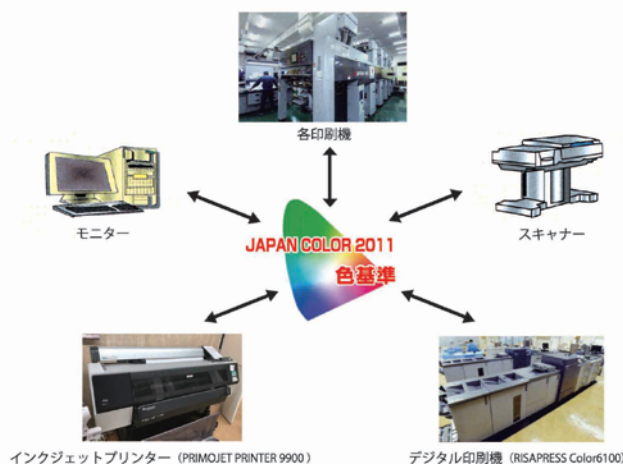


「Japan Color マッチング認証」の基準である平均 ΔE が適正値 3 以内のところを、2 におさまるよう努力をされているということですが、あえて基準を厳しくされている理由は为什么呢？

品質の追求の一言につきます。
 ΔE (色差) は、値が小さいほど基準値となる色からのずれ幅が少ない、ということです。
「Japan Color マッチング認証」では基準が「 $\Delta E3$ 以内」で OK ですが、それに甘んじることなく、あえて厳しい値を目標に設けて、さらに高みを目指しています。

全印刷機のコンディション、トーンカーブの調整を DTP 課が管理しているそうですが。

DTP 課では毎月、オフセット・オンデマンドの全印刷機、およびプルーフ 4 台のチャートを測色し、ドットゲインなどに異常が見受けられた場合は、分析結果を検証し、必要に応じて印刷機ごとに、コンディションの確認や、CTP カーブの修正を行っています。毎月行うことで異常の早期発見に繋がり、常に安定した印刷物の作成を行えます。また、Japan Color の定期管理や更新手続きも行っています。刷版課、印刷課と連携をとりつつも、DTP 課が一括管理することで、管理・責任の所在を明確にし、各課の統制を行なっています。



印刷課からのフィードバックに対して、具体的にどう対処されていますか？

まず印刷課から、数値にズレが生じるような要因をフィードバックしてもらいます。例えばインキやブランケット変更等、具体的な報告を行なってもらい、各々の状況に応じた対処法を検討します。印刷機のコンディションを整えたり、インキメーカー様に協力をいただいたり、CTP カーブの調整を行っています。

上述のように、毎月のミーティングで、全ての印刷機が「Japan Color」の基準値以内よりさらに厳しい、当社独自基準である「 $\Delta E2$ 」以内に収めるように、調整を行っています。これにより、世界トップクラスのカラーマッチング精度を実現しております。

ありがとうございました。

今回は色にこだわる北東工業の司令塔である DTP の取り組みについて伺いました。次回は印刷を支えるもう一つの部署、刷版課にお話を伺います。